

# 令和4年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名           歴史博物館          

(評価基準) (達成度)	達成 (目標値 ≥ 100%)	○
	ほぼ達成 (目標値 ≥ 80%)	△
	未達 (目標値 < 80%)	×

○全館共通項目

	取組の内容 ※「1年間の目標値」欄下部の番号は当館個別評価の対応箇所		自己点検			第三者 評価  今後の方向性等の提言
	1年間の目標値	実現方策	達成値 ※ () は「1年間の目標値に対する達成率	達成度	課題・対応の方向	
利用状況	利用者満足度	90% (かながわブランドデザイン第3期素案PJ14の指標(県立社会教育施設利用者満足度 2022年度 90%)を参考とした目標値) <b>6-5-③</b>	・様々な機会をとらえて来館者アンケートを実施し、意見を活用して改善を行う。	92.8% (103%) <b>【参考：アンケート回答者数】</b> R2年度：1,182 R3年度：1,034 R4年度：1,202	○	・引き続き、新型コロナウイルスの感染状況等を注視しつつ、様々な機会をとらえてアンケートを実施し、当館への様々な意見を収集・検討・反映するよう努め、充実した展示や講座等を企画・実施していくことで利用者満足度の維持・向上を図る。
	入館者	47,628人 (※ R3年度1日平均入館者数(162人)にR4年度開館日数(294)を乗じた数) <b>6-5-①</b>	・集客力ある展覧会や各種事業の実施  <b>【参考：R3年度実績】</b> 入館者数：46,843 開館日数：289 1日平均入館者数：162	88,789人 (186%)	○	・特別展等に係る講座等を積極的に実施したことや、昨年度までに比べ広報の制限が少なかったことにより来館者数が増加したと思われる。 ・また、昨年度までに比べ、新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され、全国的に観光客等も増加したことも、入館者数増に大きな影響があったと考えられる。 ・引き続き、充実した魅力ある展覧会・講座等を企画・実施する。

教育・普及事業への参加者	3,500人 <b>4-1-②</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>行事名</th> <th>件数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座・講演会等</td> <td>29</td> <td>903</td> </tr> <tr> <td>展示解説</td> <td>25</td> <td>778</td> </tr> <tr> <td>体験教室・見学会</td> <td>15</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>ミュージアムコンサート</td> <td>1</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>ミュージアムミッション</td> <td>1</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>71</td> <td>2,078</td> </tr> <tr> <td>出張講座</td> <td>18</td> <td>1,715</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>89</td> <td>3,793</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考：オンライン配信 (Youtube)】 特別展展示解説動画 10本 特別陳列関連動画 7本</p>	行事名	件数	参加者数	講座・講演会等	29	903	展示解説	25	778	体験教室・見学会	15	213	ミュージアムコンサート	1	37	ミュージアムミッション	1	147	計	71	2,078	出張講座	18	1,715	総計	89	3,793	3,793人 (108%)	○	<p>・新型コロナウイルスによる制限が緩和され、展示解説を予定通り実施することができたこと、出張講座等の件数も増加したことなどにより、達成率が高まった。</p> <p>・今後も引き続き、魅力ある講座・講演会、体験教室等を企画・実施するとともに、オンラインの活用も本格化させていく。</p>
	行事名	件数	参加者数																													
	講座・講演会等	29	903																													
展示解説	25	778																														
体験教室・見学会	15	213																														
ミュージアムコンサート	1	37																														
ミュージアムミッション	1	147																														
計	71	2,078																														
出張講座	18	1,715																														
総計	89	3,793																														
インターネットアクセス	(R3実績) 1,659,186件 <b>5-1-③</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの安定的な管理運用を行う。</li> <li>・ホームページの適宜更新を行い、最新のわかりやすい情報提供に努める。</li> </ul>	2,041,062件 (123%)	○	<p>・システムの安定的な管理運用を継続する。</p> <p>・R4年9月に収集資料データベースを「神奈川県立歴史博物館デジタルアーカイブ」として公開したところ、半年間で56,857件のアクセスがありHP全体のアクセス数にも大きく寄与していると考えられることから、今後、内容の一層の充実を図っていく。</p> <p>・引き続き、HPでは内容の充実や最新情報の提供に努める。中でも、「おうちでかながわけんぱく」のアクセス数が順調に増加しており、コンテンツを追加していることがアクセス数に寄与したと思われ、引き続き取組を進める。</p>																											
資料・収蔵品	活用 (特別利用) (R1, R2, R3 3か年平均) 217件 610点 <b>6-4</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真資料の特別利用について、申請者に適切な指導を行い、事務手続を円滑に遂行する。</li> </ul> <p>【参考】 3か年平均：217件、610点 R元年度：225件、597点 R2年度：231件、588点 R3年度：196件、646点</p>	203件 (94%) 508点 (83%)	△	<p>利用者のニーズを把握して、希望に応じた写真資料の活用が図れるように努める。</p>																											

		<p>(常設展示室における展示)</p> <p>約 1,400 件</p> <p><b>3-1-②</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再開館当初の展示資料数約 900 件をベースに、年 7 日設けられた常設展のための資料整理休館日を活用して約 500 件を入れ替え紹介する。(ただし、このほかに特別展に展示する館蔵資料もある。)</li> </ul>	1,514 件 (108%)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な展示替えを継続し、トピック展示や、特別展・コレクション展の関連資料展示など、各テーマで工夫を加えて、より魅力ある常設展を目指していくとともに、常設展の情報発信を強化して、来館に繋げていく必要がある。</li> </ul>		
	維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然的要因を除く毀損(汚破損)の防止。</li> <li>・計画的な資料修繕。</li> </ul> <p><b>1-3-①</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IPM(総合的害虫管理)を継続する。</li> <li>・資料受け入れ時に適切な保存処置を行う。</li> <li>・必要に応じて薬剤燻蒸を実施する。</li> <li>・収蔵庫及び展示ケース等の環境調査を定期的に行う。</li> <li>・修繕計画の見直しを行い、順次実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に基づく収蔵庫等の定期清掃、環境調査、資料燻蒸(エキヒューム燻蒸と炭酸ガス燻蒸)、展示室の空気環境調査ほかを実施。</li> <li>・資料の搬入時に状態を報告する「搬入計画書」を整備し、運用を開始。</li> <li>・Wi-Fiのデータロガーを7台購入し、常設展示室に配置できる体制を整備。</li> <li>・特別展示室ケース内の換気を継続的に実施するとともに、外部機関の協力を得て有機酸値の測定を行うなど、環境改善のための取り組みを継続。</li> <li>・修繕計画に基づき優先順位の高い5件の資料修繕を実施。</li> </ul>		△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫や展示室の日常的な環境管理は適切に実施できているが、館内の保存環境を維持するためには、今後も空調機器のメンテナンス等を計画的に実施していく必要がある。</li> <li>・予算の制約からひとつの資料群を一括で修繕することが難しいため、より詳細な修繕計画を整備するなど、計画を見直す必要がある。</li> </ul>	
調査研究	研究成果の公開(発表・印刷物等)	<p>(常勤学芸員 14名×5件、非常勤学芸員 4名×4件)</p> <p>86 件</p> <p><b>2-2</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費助成事業等の競争的資金も積極的に活用し、研究論文・展示・各種講座等により、研究成果の幅広い発信に努める。</li> </ul>	159 件 (185%)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動のさらなる充実には、研究費の確保と研究環境の整備が課題である。</li> <li>・今後も外部研究資金の積極的な獲得により、研究のクオリティを保っていく。</li> </ul>		

情報発信	事業情報の発信	(R1, R2, R3 3か年平均)  700件  <b>5-1-②</b>	・HP（ツイッター含む）を活用した情報提供や刊行物、マスメディア（紙・電波媒体、ネット）による情報発信  【参考：発信数】 3か年平均：700 R元年度：804 R2年度：643 R3年度：653	690（99%）	△	・新聞・テレビ等マスメディアを対象にした取り組みとして、特別展内覧会のプレスリリース資料を作成・送付するなど、コロナ禍で積極的な広報が出来なかった前年度以前から、新しい取り組みを追加で実施した。 ・また、新聞・テレビ等マスメディアへの露出機会を増やすため、メディア各社へのタイムリーでよりきめ細やかな情報提供も継続する必要がある。
	観覧料収入及び	(R4 予算書の収入積算額)  20,306 千円 <b>6-5-②</b>	・来館者増につながる展覧会の開催など各種事業の実施	20,748千円（102%）	○	感染症対策では事前予約等の措置が必要なくなり通常に近いかたちで開館したことから、入館者数の増加に繋がった。
	施設運営等	高齢の来館者への配慮  <b>6-1-②</b>	・展示解説の読みやすさや館内の休憩スペース等高齢者の視点に沿った点検を行う。	グラフィックパネル4年度分の更新	○	今後のコロナ対応策の緩和に伴い休憩用のいすを増設する。
	自己研鑽及び他館の研究	文化庁等関係各機関が実施する研修に積極的に参加し、専門能力の向上を図る。  <b>2-3</b>	・可能な限り、各学芸員の専門能力を高めるための研修参加や他館の研究を推進する。	・文化庁が主催する「指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」「ミュージアムPR研修」など国等が主催する4件の研修に参加	○	・今後も、国等が開催する研修会等に積極的に参加し、学芸員としての資質向上を図っていく。

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。